

『非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン 改訂第3版』

正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

(2024年6月7日作成, 2024年7月3日更新)

刷	頁	該当箇所	誤	正	更新日
1刷	18	5行目	フェンタニル貼付剤は、先発の4製剤のみ非がん性慢性疼痛に保険適用があり、	フェンタニル貼付剤は、先発の製剤のみ非がん性慢性疼痛に保険適用があり、	2024/6/7
1刷	19	表4 タイトル	フェンタニル貼付剤の切り替え時の先行オピオイド鎮痛薬の開始方法	先行オピオイド鎮痛薬から切り替える際のフェンタニル貼付剤の開始方法	2024/6/24
1刷	81	表18 引用表記	薬物依存症に関係する人間関係の6つの問題（文献8より筆者訳）	薬物依存症に関係する人間関係の6つの問題（文献8より作成）	2024/7/3
1刷	82	参考文献4行目	8) Oliver J et al : American Society for Pain Management nursing position statement : pain management in patients with substance use disorders. Pain Manag Nurs 13 : 169-183, 2012	8) 成瀬暢也 : 病としての依存と嗜癖. こころの科学 182 : 17-21, 2015	2024/7/3
1刷	95	本文下から7行目	また、トラマドール・アセトアミノフェン配合錠についても疼痛緩和効果が確認され、近年、保険適用が追加承認された ¹¹⁾ 。しかし長期的効果については未だ明らかになっていない点に注意を要する。これらの処方を検討したのちに、鎮痛効果が未だ不十分であった場合、オキシコドン徐放性製剤が検討されることがある。オキシコドン徐放性製剤は有意に疼痛スコアとQOLを改善したというRCTが存在するが ¹²⁾ あくまでも4週間の結果であり、有益性・有害性に関する今後のさらなる検討が待たれる。	また、トラマドール・アセトアミノフェン配合錠についても疼痛緩和効果が確認され、近年、保険適用が追加承認された ^{11,12)} 。しかし長期的効果については未だ明らかになっていない点に注意を要する。これらの処方を検討したのちに、鎮痛効果が未だ不十分であった場合、オキシコドン徐放性製剤が検討されることがある。オキシコドン徐放性製剤は有意に疼痛スコアとQOLを改善したというRCTが存在するが ¹³⁾ あくまでも4週間の結果であり、有益性・有害性に関する今後のさらなる検討が待たれる。	2024/6/26
1刷	96	参考文献の追加	12) Naruge D et al : Tramadol/acetaminophen combination tablets in cancer patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy : A single-arm phase II study. Palliat Med Rep 1 : 25-31. 2020	12) Naruge D et al : Tramadol/acetaminophen combination tablets in cancer patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy : A single-arm phase II study. Palliat Med Rep 1 : 25-31. 2020 13) Watson CP et al : Controlled-release oxycodone relieves neuropathic pain : a randomized controlled trial in painful diabetic neuropathy. Pain 105 : 71-78, 2003	2024/6/26